

山大聖火リレー

山形大学で学んだこと、過ごした日々、
それらはやがてさまざまな成果となって、社会に燦々と火を灯す。
現役山大学生やOBたちが各方面で活躍する姿を追った。



1 クラゲ展示室(クラネタリウム)にて。「クラゲのメッカとなって、世界中から研究者や観光客が集まってくるような水族館にしたい」と語る村上館長。ネクタイは、売店で販売されているオリジナルのクラゲ柄。

2 ノーベル化学賞を受賞した下村脩氏の研究に深く関わっていると、一躍注目を集めたオワンクラゲ。おかげで入館者数は、通常の1.5~2倍に。その縁で2010年春には、下村氏が来館し、一日名誉館長を務めた。

3 「水族館に展示されているクラゲの種類の数」でギネス世界記録に挑戦。2人の海洋生物学者が種類を確認した結果は30種類で、見事世界一に。ギネス社への申請から約2ヶ月後の2012年4月に届いた認定証。

波瀾万丈の館長人生、奇想天外なアイデアで「世界一のクラゲ水族館」を作った男。

村上龍男 鶴岡市立加茂水族館 館長

「人が感心するようではまだまだ。人が笑って本気にしないようなことをやらないと成功はない」とこやかに語るのは、加茂水族館館長の村上龍男さん。来館者も激減していた小さな水族館を、クラゲの展示に特化するなどの斬新な改革で再生させた名物館長として知られているが、本学のOBであることを知る人は意外と少ない。子どもの頃から魚が好きだった村上さんは、当時、農学部で魚の研究をしている先生がいたことから本学に進学したという。卒業後、一度は商社に勤務するも、大学時代の恩師の勧めで加茂水族館に勤務することになる。ところが、その翌年には水族館の経営形態が変わるなどの諸事情により、いきなり館長という重責を担うことになる。ま

だ27歳ながら職員の中では最年長というのがその理由だった。

若き村上館長は大胆な発想で、最悪だった経営状態の立て直しに挑み、成果を上げていった。その度胸は高校・大学時代に培われたもので、特に大学時代には、勉強以外にもさまざまな経験をしたからこそ、自主性が育まれ、豊かな発想につながったのだと振り返る。持ち前の豊かな発想力からクラネタリウムが生まれ、クラゲアイスやクラゲラーメンが商品化されていった。クラゲの展示種類数でギネス世界記録の認定を受けたことも、ノーベル化学賞受賞の下村脩氏の来館がかなったことも、単なるタイムリーやラッキーではない。村上館長ははじめ水族館のスタッフが一丸となって取り

組んだクラゲの研究、時間をかけて深めていった下村氏との友好関係など、すべての成果は努力の賜なのである。

現在、加茂水族館は2014年のリニューアルオープンに向けて、営業を続けながら改築工事を進めている。新しい水族館の建設という大きな目標がかないつつある今、村上館長はすでに次なるビジョンを描いていた。世界中から研究者が集まるクラゲのメッカにすること、クラゲを通して命の教育に貢献すること、そして、観光客も含めた多くの人々を庄内に惹きつけて活性化を牽引し、地域に感謝される存在になりたいという。村上館長が今度はどんな手法で目標を達成するのか、大先輩の活躍からまだまだ目が離せない。

発想の成果